

令和7年度 学力向上のための重点プラン【小学校】 新宿区立落合第六小

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・7年4月11日】

授業作り	重点	友達との関わりの中で児童が自ら考え、表現できるような指導内容の工夫を図る。ICT機器と紙の教材、両方の良さを活用したハイブリッドな教育を行い、個別最適な学習への深まりを目指す。
環境作り		集団指導体制を導入し質の高い授業を行うことにより、児童が主体的に学び合う場と機会の設定を行う。さらに、特別支援教育・ユニバーサルデザイン・個別学習などによるインクルーシブ教育を行う。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		- 日常生活に必要な基礎的な国語力を確実に身に付けさせる。 - 人との関わり合いの中で伝え合う力や思考力・想像力を身に付けさせる。 - 加法及び減法の意味について理解し、正確に用いたり、計算したりする力を身に付けさせる。 - 数についての感覚、量とその測定についての感覚、図形についての感覚を豊かにさせる。	①デジタルドリルや練習プリント等による反復学習を行う。 ②読み聞かせや読書活動の充実を図る。 ③話し合い活動の充実を図る。 ④具体物・絵などを活用した学習展開の工夫を行う。
2 学 年		- 全体的に集中力が長く続かないため、集中力の持続が課題である。 - 語彙を増やし、表現力・文章力を高める。 1年生の内容はある程度理解できている児童がほとんどである。2年生では掛け算など次の学年につながる学習が多いので、定着できるよう指導する。	①1つの授業に2～3つくらいの活動を取り入れる。 ②「話す・聞く」のトレーニングとしてペア学習やグループ学習を設定する。 ③一言日記の課題など、文章化する機会を増やす。 ④読み聞かせや読書の機会を増やす。 ⑤デジタルドリル、ドリル、ノートを活用する。 ⑥具体物や絵、表などを取り入れた視覚的にもわかりやすい授業を行う。
3 学 年	- 言語の知識・技能については水準以上にある。 - 新宿区学力定着度調査では、思考力・判断力・表現力を問う問題の正答率が低く、特に話すこと、聞くこと、読むことについて課題がある。 - 思考力を鍛える機会を意図的に設ける必要がある。	- 語彙を増やし、表現力・文章力を高める必要がある。漢字や単語の意味を学習するとともに、指示語の内容を具体的にイメージさせることで読解につながる基本的な力を付けていく。 - 相手の話を聞き、話し合う力を伸ばす。 - 日常の学校生活の中で子どもたちが考えたり、判断したりする機会を意図的に与える。	①思いや考え、予想などを文章化する機会や読み聞かせ・読書の機会を増やす。辞書引き学習の実施。 ②ペア学習やグループ学習の機会を意図的、計画的に授業に入れる。 ③日記の課題やスピーチの活用。学級会活動の活性化。
4 学 年	- 新宿区学力定着度調査では、話すこと・聞くことについてのポイントは比較的高い水準にある。 - 言葉・情報・言語文化などの知識・技能の定着については課題がある。 - 図形の特徴を正しく理解したり、正確に計算をしたりする力に課題がある。	- 新出・既習漢字を正確かつ丁寧に書く力と活用する力を伸ばす。 - 語彙を増やし、主述関係や文末を意識した表現力・文章力を高める。 - 図形の構成要素を意識して、問題解決や説明にあたる意識を高める。	①漢字や計算など知識・技能を向上させるための反復学習の実施 ②辞書引き学習の実施 ③個人の習熟度に合わせたデジタルドリルの活用 ④具体物・半具体物の活用。
5 学 年	- 新宿区学力定着度調査では、国語、算数ともに、基礎的な知識・技能の観点において比較的高い水準にある。 - 自分の思いを言語化して表現する力に課題がある。 - 自分の意見や考えを論理的に組み立て、表現する力の向上が必要である。	- 計算や図形、漢字など、基礎的な知識・技能を活かし、応用力を伸ばす。 - 自分の思いを正しく語ることができるようにする。 - 文章の構成を理解し、それに合わせて自分の意見や考えを表現する力を伸ばす。	① 読書等の環境整備。 ② 少人数グループでの活動を多く設ける。 ③ デジタルドリルの活用 ④ 自分の考えや意見を文章化する機会を増やす。 ⑤ 辞書引き学習の実施。

6 学 年	・新宿区学力定着度調査では、言語の知識や、話す・聞くなどの知識・技能のポイントは比較的高い水準にある。 ・文章を読み取り、書くことに課題がある。 ・「数の計算」のポイントが区の平均と最も離れており、基礎的な計算を正しく理解する必要がある。	・積極的な児童が固定化されており、意欲にも差がある状態である。全員が学習に参加できる授業内容の工夫を行う。 ・読解力を身に付け、自ら自分の考えや思いを正しく文章に表す力を身に付けさせる。 ・基礎的な四則演算ができるようにする。	① 全員が自信をもって発言できる環境を整え、話をきちんと聞くことのできる態度の定着を図る。 ② 読書の励行、各教科を通して、文章を書くことへの指導を行う。 ③ デジタルドリルの活用 ④ 児童一人一人の課題に即した指導を行う。 ⑤ 辞書引き学習の実施。
特 別 支 援			